

松本秀峰中等教育学校（松本市埋橋）の高校2年、中沢冬芽君（17）と伊藤河間君（17）が、14、15日に国連大学本部（東京都渋谷区）で開かれる「第9回全日本高校模擬国連大会」に出場する。模擬国連は、国連の国際会議を想定して国際問題などを話し合う場。事前の書類審査を通過した2人は県内では唯一の出場で、全国の高校生たちと議論をぶつけ合う。（北村希）

14、15日 全日本高校大会

模擬国連 議論楽しみ



高校模擬国連大会に出場する（右から）伊藤君と中沢君＝松本市の松本秀峰中等教育学校で

事前の書類審査では、異文化理解などに関する英文、和文の読解力や要約力が問われ、今年は二人一チームで過去最多の二百三チームの応募があった。大会には審査を通過した八十チームが出場

中沢君と伊藤君は同じクラスの友人で、昨年は事前審査に通らなかったため、今年はその悔しさを晴らしてみせた。

大会ではチームごとに各国の大使になりきり、

松本秀峰 中沢君、伊藤君 県内で唯一出場

「移民」をテーマに移民問題の解決策などを議論する。発言の論理性や、大使として国益になる活動ができたかどうかを審査され、上位約六チームには来年五月に米国で開催される国際大会への出場権が与えられる。

二人は希望が通り、アルジェリアの大使を担当する。人材がフランスなどの先進国へ流出している問題を捉え、欧州とアフリカによる共同の教育機関設立などを訴えるつもりだ。今月初旬には東京大にある模擬国連研究会を見学し、文献を読み込むなどして準備を進めてきた。

中沢君は「出場できて光栄。結果にこだわらず、交流や学びも楽しみたい」と意欲を見せている。